

Eureka XII

六年制通信 No.13 令和6年6月28日(金)号

主体性

ついに負けてしまわれましたね。絶対王者の藤井八冠が。翌日は各社一面トップでしたから、世間が大きなニュースととらえていることがわかります。伊藤七段と藤井さんは同級生で、小学三年生の時二人は対戦し伊藤さんが勝っています。藤井さんは号泣したらしい。二人がプロになってからは、伊藤さんは「藤井を泣かせた男」と呼ばれておりましたな。以後「藤井から初めてタイトルを獲った男」と称されることでしょう。私はこれからも藤井さんを応援しますけど。

さて、藤井七冠について書かれた本を結構読みましたが、主体性という言葉がこれほどぴったりする人はいませんね。他にはもちろん大谷翔平選手もそうですね。私の視野が狭いだけで、他にもそれぞれの分野でたくさんいるのでしょうか。

私は個人的に、お二人とも親がマスコミに出てこないことに非常に好感をもっています。立派なご家庭に育ったことがそれだけでもわかります。

昔から、これは日本だけに限らないと思いますが、「子ども信仰」とでもいうような考え方があります。つまり、子どもというのは純粋なものだから何も手を加えなくても善き人に成長する、持って生まれた自分の能力を高めていくという考え方です。大人があれこれ干渉するから子どもは悪くなるのであって、自然に任せておけば大丈夫というわけですね。しかしこれは万人に通じる話ではありません。大学の先生で、子どもが純粋だなんて馬鹿なことを言うな、先生の方がよほど純真だよ、子どもというのは邪悪なものだと言った人がいましたが、真偽のほどはともかく子どもを自然のままに放っておけばスクスク正しく育つというのは、言い換えれば教育の否定みたいなものですから、私は一部例外を除いてあり得ないと思っています。一部例外というのは周囲が沈黙してしまうほどの主体性を持った人のことです。普通は、私はよく説明会などで言うのですが、物事の修得は **must** から始まり **will** になっていくものだと思います。そもそも何らかの強制力がなければ、触れることすらしないことの方が多いわけで、しかもすぐに壁にぶち当たるものです。そこでさらに強制力が働かないと乗り越えることは出来ないのが普通です。そして辛抱強く学んだ結果壁を乗り越え、その先に初めて「この分野は自分に向いているのではないか」という感覚が生まれるわけです。そうなれば後は **will** の世界で、自分で勝手に成長していきます。

藤井さんの場合、**must** の期間が短かった、というよりほぼなくて、将棋と出会った5歳のころからすでに **will** だったのだと思います。学齢期に入る前から主体性に満ちていたわけですから、モンスターに成長するはずです。主体性とは自分の意志や判

断に基づいて行動する性質を言うのですが、子どもの頃から誰にも強制されることなくただひたすら一つのことに向き合うと、大谷選手もそうでしょうが、素晴らしいモンスターが生まれることがあります。しかし、だからといって誰にでも自分の主体性のままに生きることを奨励し、一切のアドバイスなしに勝手気ままにさせておくと、ほとんどは失敗に終わると思います。自分の好きなように生きるというのは、きっと言葉は美しいかもしれませんが実際には非常に苦しいものだと思います。人間はそんなに強くないというのが私の実感です。全く強制のない世の中には数人のモンスターと大多数の、自分を見失った凡人がいるだけではないか、そんな気さえします。

若いうちは興味を持つ事柄も多いし可能性もありますから、自分が何に向いているかをいくつか試すことができます。藤井さんのように、初めて出会ったものに魅了されて、その道を究めていこうと努力すること自体が自分の仕事になるというのは非常な幸運でしょう。私たちはいくつか興味のあるものを試しながら自分の適性を探っていくのが普通です。自分の中に **will** が生まれた分野に適性があると考えていいと思います。それでもなかなか自分の適性がわからない時があります。ひょっとしたら多くの人がそうなのかもしれません。私もそうでした。そういう時は、いくつか試してみて最後まで残ったもの、それを長く続けていけばいいと思っています。なぜその分野を選んだかという動機よりも、長く続けることの方が百倍も価値がありますからね。

今週のおすすめ

・井上ひさし 『言語小説集』 (新潮社)

七つの短編集。帯に筒井康隆の推薦文がありますが、これ、作者を知らずに読んだら筒井さんの短編集と思うかもしれません。

どれも面白いのですが私の一押しは『括弧の恋』です。爆笑してしまいました。井上さんも笑いながら書いたに違いないと思います。ワープロ（ワードプロセッサのことですが、これ、君たちは知らないでしょうね。担任の先生に聞いてください）を打ちながら、どうも鉤括弧（「」ですな）が表示されるのが遅い。ディスプレイされるのに3秒ほどかかる。で、ですね、ワープロの内部で●が「おいおい、早くディスプレイに出ていかんかい。」と怒鳴るところから物語がスタートします。もう面白そうでしょ。○や★や→や←や↓や↑や！や？が擬人化されて登場。！の話し方はやはり語尾に！がつくような感じ。よくまあこんなこと思いつきますね。

鉤括弧の「」が「を好きになるのですね。いつもくっついていたいのに、「と私（」との間には邪魔な文章が入ってきて離れ離れになってしまう、そう言って嘆く」。先日は「と私との間に、君ナンカ嫌イダヨ、アア、大嫌イダという文章が入ってきて、あの時は私、一日ご飯がのどを通りませんでした…。もうディスプレイに出ていくのが怖いと言う」。ワープロ内の記号たちの頂点に立つのは●だそうで、まさか「」が自分の言うことに逆らうとは思ってもいなくて、と物語はいろんな記号たちを登場させて進んでいきます。下らんと言えば下らん話ですが私は大好きです。

BGMは Michael Bolton の *How Am I Supposed To Live Without You* でした…。